

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 9 月 28 日現在

機関番号：33709

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K12191

研究課題名(和文) ケアミックス病院における看護管理の構築 機能分化に対応できる教育プログラムの開発

研究課題名(英文) Construction of nursing management in care mix hospitals Development of educational programs that can respond to functional differentiation

研究代表者

永坂 和子 (Nagasaka, Kazuko)

岐阜保健大学・看護学部・准教授

研究者番号：50780144

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：機能分化に対応できるケアミックス病院の看護管理項目と到達度の構築を試みた。まず文献によるケアミックス病院の看護管理項目を抽出した。次に、ケアミックス病院を構築してきた管理者による半構造的面接調査より、機能分化に対応できる看護管理項目を抽出した。これらの看護管理項目を用いて、ケアミックス病院を8年以上経験してきた管理者に看護管理項目の必要性の有無と管理の到達度をデルファイ法調査にて明らかにした。この看護管理項目を用いて200床以下の病院の1～2年目の経験看護管理者を対象にオンライン研修を行い、機能分化に対応したケアミックス病院の看護管理項目と到達度について調査し、教育プログラムを作成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

機能分化と連携が進められている政策において、ケアミックス病院が増えることが予想される。機能分化に対応していくための看護管理項目を明らかにし、教育プログラムを開発していくことは、中小病院が機能分化して地域の実情に合わせたケアミックス病院に移行する時の看護管理内容や看護管理教育についての議論に寄与することが考えられる。

研究成果の概要(英文)：We tried to build nursing management items and achievements of Caremix Hospital that can respond to functional differentiation. First, the nursing management items of Caremix Hospital based on the literature were extracted. Next, nursing management items that can respond to functional differentiation were extracted from a semi-structural interview survey by the manager who built the Caremix Hospital. Using these nursing management items, the Delphi method survey clarified the necessity of nursing management items and the degree of achievement of management for managers who have been in Caremix Hospital for more than 8 years. Using this nursing management item, online training was conducted for experienced nursing managers in hospitals with 200 beds or less in the first and second years, and the nursing management items and achievement levels of care mix hospitals corresponding to functional differentiation were investigated. Created an educational program.

研究分野：看護管理学

キーワード：ケアミックス病院 機能分化 看護管理 教育プログラム

1. 研究開始当初の背景

ケアミックスは、病院内に急性期病棟と慢性期病棟が混在すること（小林 1993）や中小病院の医療現状として医療保険と介護保険を併せ持つ病院（小林 1996）として紹介された。機能分化と連携が推進され、ケアミックス病院は 1993 年頃より増加傾向を辿ってきている。筆者は、臨床現場で看護管理として看護部長を担っていた。地域の医療需要を満たすために急性期病床に加え、療養病床、回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟の開設計画が始まった。数年の間にケアミックス病院となり、手探りで看護管理を行ってきた。2016 年 4 月より、筆者は大学の看護教員に転職した。全国のケアミックス病院の看護管理者の経験値を体系化し、質の高い看護管理を構築することで、ケアミックス化する病院の看護管理が効果的に実践力となる運営ができるのではないかと考えた。

機能分化は、医療提供内容の変化による職員の増減、病棟再編、人事異動等の看護管理の構築が必要となる。しかし、ケアミックス病院における地域の最適化を考えた看護管理や教育に関する先行研究は見当たらなかった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、機能分化に対応できるケアミックス病院の看護管理に必要な項目と到達度を明らかにし、今後の機能分化とともにケアミックス病院に変革していく時の看護管理の質の向上に資することである。

- 1) 目的 1 機能分化に必要なケアミックス病院の看護管理項目と構成要素を明らかにする。
- 2) 目的 2 抽出された看護管理項目をケアミックス病院の運営・管理を行って 8 年以上経験してきた管理者に必要な有無と到達度を明らかにする。
- 3) 目的 3 「機能分化に対応したケアミックス病院の看護管理」オンライン研修を実践し、看護管理項目と到達度を評価する。
- 4) 目的 4 教育プログラムを検討・作成する。

3. 研究の方法

- 1) 目的 1 「ケアミックス病院」「機能分化」「機能転換」「病床再編」「看護管理」「マネジメント」等のキーワードで国内文献データベースを用いて検索した。この条件でケアミックス病院に必要な看護管理の記述を対象文献とし、内容分析にて機能分化に必要な看護管理項目と構成要素を明らかにした。また、ケアミックス病院を 8 年以上経験してきた管理者を対象に面接ガイドを用いて半構造的面接調査を行った。内容分析にて機能分化に対応したケアミックス病院に必要な看護管理項目および構成要素を明らかにした。
- 2) 目的 2 目的 1 の文献・面接調査より抽出されたケアミックス病院の看護管理 73 項目を作成した。対象者は、施設・本人の同意を得た機能分化に対応してケアミックス病院の運営管理を 8 年以上経験してきた管理者 7 名。調査票は、目的 1 で作成した看護管理

73項目に対し、それぞれの前回の結果を添え、「必要」「必要でない」と到達度は4段階「内容の理解ができる」「理解し説明ができる」「提案・戦略・体制作りができる」「提案・戦略・体制作りができ実践ができる」についてデルファイ法にて回答を求めた。同意率は、「必要である」項目については80%以上、到達度については50%以上とし、管理項目と到達度を明らかにした。

- 3) 目的3 目的1、2で作成した機能分化に対応したケアミックス病院に必要な看護管理73項目を用いて教育プログラム化し、中小病院1~2年目の看護管理者36名にオンライン研修を行った。36名には事前・研修直後・研修3か月後に看護管理項目「必要である」および到達度4段階「内容の理解ができる」「理解し説明ができる」「提案・戦略・体制作りができる」「提案・戦略・体制作りができ実践ができる」についてアンケート調査をした。分析は、デルファイ法より得られた8年以上経験してきた看護管理者の「必要である」項目と「到達度」について、研修生の看護管理項目「必要である」と「到達度」について統計解析を用いて比較検討した。
- 4) 目的4 目的3より抽出された看護管理項目や受講生の意見等を検討し、教育プログラムを作成した。

4. 研究結果

- 1) 目的1 108件の文献より看護管理として必要な73項目と構成要素9つ「制度・政策に基づいた中長期的グランドデザイン」「地域分析と自施設の現状分析」「医療中心から介護・福祉・生活支援を盛り込む方針の見直し」「急性期から慢性期に至る切れ目のない医療・介護の実践」「地域のネットワーク作りを自施設から発信」「再編・ダウンサイジングを考えた具体的な戦略」「看護部主導で病棟再編を進める」「実施後の医療の質・経営評価」「既存の強みを伸ばし病院としてレベルを落とさず幅広い機能レベルをもつ」を明らかにした。

面接調査では7名の管理者より、看護管理として必要な22項目と構成要素6つ「人口動態・疾病構造・医療制度の変化とそこから生じる医療・介護・福祉の問題」「自施設がある地域医療問題を地域で検討」「制度・政策地域医療の課題から対応していくための中長期的グランドデザインの策定」「急性期医療の継続」「慢性・在宅期医療の強化」「地域住民の健康と障害予防の継続」「多職種連携を促進する情報共有・人材育成と遣り甲斐の醸成」が抽出された。文献および面接調査結果による構成要素を検討し、看護管理として必要な項目73項目を明らかにした。

- 2) 目的2 対象者34名(回収率48%)であった。前回の調査結果のフィードバックを添えた質問紙で郵送を3回行った。73項目中、67項目が「必要である」80%以上であった。到達度においては、「内容の理解ができる」「理解し説明ができる」0項目、50%以上では「提案・戦略・体制作りができる」36項目、「提案・戦略・体制作りができ、実践できる」31項目であった。これらの管理項目と達成度を考え、教育プログラム内容を作成し

て研修計画の資料とした。

- 3) 目的 3 39 床～268 床の中小病院の看護管理者（経験 1～2 年目、以下研修生）を対象に「テーマ：機能分化に対応した中小規模病院/ケアミックス病院の看護管理者教育」研修を行った。当初は、対面で行う予定であったが新型コロナウイルス感染拡大の中であったため、オンライン研修とした。プログラム内容は、機能分化時の看護管理として、制度・医療政策、地域医療構想、ケアミックス病院のクリニカルラダー開発と活用、地域分析手法・自施設の分析等の講義・演習・グループワークを行った。対象者 36 名、看護管理項目および到達度についてアンケート調査を行った。回収率は 100%であった。研修生とケアミックス病院で 8 年間運営・管理を経験してきた管理者との比較では、項目では「ダウンサイジングを行う時の対応」52%、「ポリファーマシーの知識」57%、「自治体の医療・介護作りに参加」37%、「医師会との顔の見える関係」57%と低く、有意差がみられた（ $P < 0.01$ ）。また、到達度においては、差が見られなかった。また、研修生の意見では、地域分析、施設内分析においても回数を重ねて教育してほしいことやディスカッションできる場を作る等の要望を整理した。
- 4) 目的 4 教育プログラム作成では、制度・医療政策の基礎知識とともに「ダウンサイジングを行う時の対応」「ポリファーマシーの知識」「自治体の医療・介護作りに参加」等の実践力に結び付けていくことができる内容を強化していく必要性が示唆された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 永坂和子
2. 発表標題 ケアミックス病院における看護管理教育の構築,機能分化と連携に対応する看護管理のオンライン研修
3. 学会等名 第26回日本看護管理学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 永坂和子
2. 発表標題 ケアミックス病院における地域の実情に合わせた看護管理の構築,機能分化と連携に対応する看護管理スキルに焦点を当てて
3. 学会等名 第25回日本看護管理学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 永坂和子
2. 発表標題 ケアミックス病院における機能分化に対応した看護マネジメント（第2報）
3. 学会等名 第22回日本医療マネジメント学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 永坂和子
2. 発表標題 ケアミックス病院に必要なマネジメント機能の構成要素,文献より抽出した看護管理
3. 学会等名 第21回日本医療マネジメント学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 永坂 和子
2. 発表標題 ケミックス病院における看護管理に関する文献の動向
3. 学会等名 第1回日本ヒューマンヘルスケア学会学術集会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	藤原 奈佳子 (Fujiwara Nakako) (30178032)	人間環境大学・看護学部・教授 (33936)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------